

☐date: 3.2013

☐check:

☐name:

医学部附属病院 スポーツ医学診療センター

アスリートのためのテーラーメイド治療

アスレティックリハビリテーション
専門の部屋。アスリート個々の問
題点、ゴールに合わせてじっくり
プログラムを組む。



Director Yagishita

2012年4月に新設された、スポー
ツ医学診療センター。スポーツによ
る靱帯損傷や肉離れなどの外傷、ス
ポーツに関連する内科的疾患を対象
に診断治療を行う。

同センターの特徴の一つであるア
スレティックリハビリテーション部門
は、けがや病気をした選手・患者
が、高いレベルで、早期に競技復
帰できることを目指したリハビリテー
ションを行う。復帰予定の競技会ス
ケジュールに合わせるなど、テーラー
メイドな治療を特徴としている。

スポーツ選手に多い呼吸器や循
環器などの全身疾患に対しては、医
学部附属病院の各診療科と連携した
「チームTMDUによるトータルケア」
を実現。さらに、高気圧酸素治療や
スポーツ歯科などの先進分野とも連
携して治療にあたる。

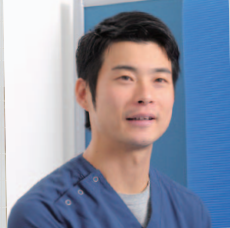
医学部附属病院整形外科は、ス
ポーツ診療では国内トップレベルの実
績があり、特に前十字靱帯の再建術
に関するプロフェッショナルの医師が
揃っている。また、脳振とうに積極
的に取り組む脳神経外科とも連携し
た治療を行う。

「将来は、東京医科歯科大学のあ
らゆる診療科と連携した治療体制を
整えることを目指しています。さら
に、けが予防につながる研究につい
ても推進していきたいと考えていま
す」と柳下和慶センター長は語る。

2012年ロンドンオリンピックに出場
した選手やプロ野球チームなど、日
本を代表するトップアスリートが同セ
ンターで治療を受け、競技復帰を果
たしている。国内のスポーツ界活性
化のためにも、スポーツ診療科は今
後さらに重要性が増す分野だといえ
るだろう。

柳下和慶センター長●「昨年のロ
ンドンオリンピックでは8つのメダ
ル競技において本学がサポートし
ています。当センターではトップ
アスリートから教育現場まで、ス
ポーツ医学・歯学の活性化に向け
て力を注いでいきたい」

相澤純也アスレティックリハビリ
テーション部門長・理学療法士
●「アスリート自身も気づいていな
いような問題点を発見しストレッチ
や日頃の姿勢、呼吸の仕方など、
あらゆる面から競技ポテンシャル
を高めるようサポートします」

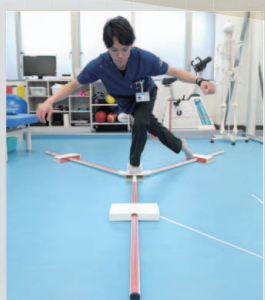


Physiotherapist

天井から吊り下がったスリングに
つかまることで、体幹部の筋力、
左右バランスなどをチェック。こ
の姿勢を維持するだけでかなり腹
筋を鍛えることになる。



左右それぞれの足をクロスさせ
て、足が届く距離からバランス
や柔軟性をチェックする。



体幹部および側腹筋の力やコン
トロールのトレーニングになるサ
イドブリッジ。持久力チェック
にも役立つ。



診療科DATA

センター長：柳下和慶

対象となる外傷・障害・疾病：スポーツによる急性外傷（靱帯損傷、捻挫、肉離れ、骨折、打撲、脳振とうなど）、スポーツによる運動器慢性障害（テニス肘、野球肩、ジャンパー膝、アキレス腱付着部炎、疲労骨折など）、スポーツに関連する内科的疾患

一般外来：スポーツ外傷・障害・疾病一般を担当

専門外来：スポーツ整形外科関連の専門外来（肩、肘、手、脊椎、膝、足など）、高気圧酸素専門外来、脳振とう専門外来